

材料安全データシート

製品名称: アダンリチアトルマリン

危険クラス: 該当無し

同義語 (別名) および CTFA およびその他の商品名: 化粧品用アダンリチアトルマリン

化学品名: 1. エルバアイト (リチアトルマリン)、Elbaite (Lithium tourmaline)

2. 長石、Feldspar

3. 石英、Quartz

4. 粘土鉱物、Clay mineral (like Kaolin*)

上記4種を含む原石を採掘

化学式: 1. $\text{Na}(\text{Li}, \text{Al})_3\text{Al}_6(\text{BO}_3)_3\text{Si}_6\text{O}_{18}(\text{OH})_4$ ただし, Na を Ca, K で一部置換 Li を Fe, Mg で一部置換

2. $(\text{Na}, \text{Ca})\text{Al}_3\text{Si}_3\text{O}_8$

3. SiO_2

4. Aluminosilicate hydrate

CAS 番号: 1. 該当無し

2. 該当無し

3. 14808-60-7

4. 該当無し *1332-58-7

CI 番号: 1~4. 該当無し

セクション I. 危険な成分

化学名 一般名 CAS 番号 % NIOSH/PEL ACGIH/TLY その他の危険

該当無し

非危険成分

(駆除剤または推進剤として使用されるガスを含む)

化学名 CAS 番号 %

該当無し

塩素またはその他のハロゲン: 有機塩素または有機ハロゲンは非検出

PCB: ND

硫黄: 硫化物として極微量

ダイオキシン: ND

シアン化物: ND

NRC 規制放射性物質: ND

生物学的廃棄物: ND

セクション II、物理的/化学的物性

沸点：無関係	比重:約 3.0
蒸気圧：無関係	融点:1000~1200° C
気密度：無関係	pH: アルカリ性
相/層：固相	粘度:無関係
気候環境・風化影響：鉱物のため急激な変化無し	固形分%:100%
外観および臭い:：白色粉体または多少黄色味を帯びた白色、無臭	

セクション III.火災および爆発危険データ

下部フレーミング (引火)限度：無関係	下部フレーミング (引火)限度：無関係
引火点：無関係 方法:：無関係	上部フレーミング (引火)限度：無関係
消火剤：無関係	
特別消火手順：引火しないが、火元の燃焼元を断ち、現場より隔離	
自動発火温度：無関係	
異常火災/爆発危険・可燃性・発火性・爆発性等は、通常の保管と使用については全く考えられない が粉塵を伴う場合にはこの限りではない	

セクション IV. 反応性データ

安定性：安定（経時変化無し）
回避すべき条件：安定であるため特に条件は無いが、過酷な状況は避けることが望ましい
不適合性・不和合性（避けるべき物質）：特に無し
危険な分解生成物：特に無し
危険重合：重合せず
回避すべき条件：安定であるため特に条件は無いが、過酷な状況は避けることが望ましい
水または空気反応性：無反応

セクション V. 健康（身体）危険データー侵入経路および暴露の影響

アダンリチアトルマリンについては下記試験を実施済みである。なお、詳細については別紙試験報告書を参照。

トルマリンのクローズドパッチによるヒト一次刺激性試験：

トルマリンのヒト皮膚に対する 24 時間のクローズドパッチテストを実施した結果、ヒト皮膚に対して一次刺激性は全く認められなかった。

トルマリン粉末のモルモットにおける皮膚感作試験：

トルマリン粉末について、雌の Hartley 系白色モルモットを用いて Adjuvant and Patch Test 法により皮膚感作試験を実施した結果、感作性陰性と判定した。

ウサギを用いた皮膚刺激性試験（リチアトルマリン）：

リチアトルマリンを検体として、OECD 化学物質毒性試験指針（1981）に準拠し皮膚一次刺激性試験を行った結果、Federal Register（1972）に準拠して求めた一次刺激性インデックスは 0.2 となり、ウサギを用いた皮膚一次刺激性試験において、検体は「弱い刺激物」の範疇に入るものと評価された。

マウスを用いた急性経口毒性試験（リチアトルマリン）：

リチアトルマリンを検体として、OECD 化学物質毒性試験指針(1981)に準拠しマウスにおける急性経口毒性試験（限度試験）を行った。本指針では、2000mg/kg の用量で死亡例が認められた場合は、LD50 値を求める詳細な試験が必要であると指示している。しかし、本試験では死亡例は見られず、部検時にも異常は認められなかった。従って、検体のマウスにおける致死量は雌雄ともに 2000mg/kg 以上であるものと考えられた。

変異原性試験(リチアトルマリン)：

リチアトルマリン突然変異誘起性を調べる目的で労働省告示第 77 号(1989.9.1)に準じ試験を実施した。検体について、Bscherichia coli WP2 uvr A 株および Salmonella typhimurium TA 系 4 菌株を用いて代謝活性化を含む復帰変異試験を 313~5000 μ g/平板の濃度で行ったが、いずれの場合においても復帰変異コロニー数の濃度依存性のある明らかな増加は認められなかった。以上のことから、検体の突然変異誘起性は陰性と結論した。

医師への注意事項：危険物でないことを告げ、当 MSDS の内容により処置

保護器具：危険性はないが必要に応じ、眼鏡・手袋・マスク等を着用

救急法(手当で)：危険性はないが下記応急措置を取る

皮膚：水で洗い流す

眼：多量の水で洗い流し、必要に応じ医師の診断を受ける

吸引：空気のできいいなとこに連れてゆき、深呼吸させ、安静にする。必要に応じ医師の診断を受ける

飲み込み：多量の水を飲ませて吐かせ、必要に応じ医師の診断を受ける

セクション VI.安全な取り扱い、貯蔵および処理

不慮の放出、漏洩、またはこぼれの処理方法：掃除機等にて吸引または水で洗い流し、その後一般産業廃棄物として廃棄処理

取り扱いおよび貯蔵上の注意：品質保護のため、高温多湿および高温下に長時間放置しない

廃棄物：40CFR の 261 に規定：該当無し その規定がある場合には、米国 EPA 廃棄物番号：該当無し

EINCS 番号：該当無し

処理の技術：特に無いが、一般廃棄物として処理

換気の工学的制御(管理)：有毒なガス等を発生することは無いが、微粉のため粉塵に注意

セクション VII. 法規制情報

日本国においては、厚生省の化粧品原料として認可済み